



名古屋ハリストス正教会

なごや「聖歌」だより2月号2012

今月の予定

聖歌練習 名古屋:12日代式後 半田:8日

聖歌は神さまへの捧げものです。毎聖体礼儀後もミニ練習を行います。名古屋も半田も「みんなで歌える」聖歌をめざしてきました。だからといってブツケ本番ではなく、「みんなで練習」もしましょう。

名古屋指揮当番

5日ピーメン松島 19日マリア松島 26日エレナ広石

ズナメニイ研究会

今月はお休み。

知って祈ろうー奉神礼は面白い

エウハリスティア

感謝の祈りーアナフォラ・聖変化

(輔) 正しく立ち、畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、
正しく立とう。畏れの心を持って立とう。注意深くしよう。
平和において、聖なる献げものを捧げよう。

(詠) 安和(平和)の憐み、讃揚の祭を ※、

平和の憐れみ、讃揚の祭を。

エウハリスティア カノン

聖体機密(感謝)の規程(Eucharistic canon)アナフォラ(献げ物、Anaphora, ἀναφορά)とと呼ばれる部分が始まります。アナフォラの原意は「持ち上げる」です。捧げものとして宝座に安置されたパンとブドウ酒は、教会のうちにあって信徒の交わりそのものとともに天の神・父の前に引き上げられ、神・聖神によって成聖され、ハリストスの真の尊体・尊血へと変化します。

ここで献げられるのはこの世のいのちのために人の子となったイイスス・ハリストスです。イイススのみが完全な「平和」の献げものです。またイイススだけが、神に捧げうる完全な「讃揚の祭」です。

※一般に歌われている「親しみの献げもの」は明治の古い翻訳です。ギリシア語やスラブ語の祈祷書は「平和の憐れみ」または「平和と憐れみ」と訳すことができます。

(司) 願くは我が主イイスス・ハリストスの ^{めぐみ} 恩、神・父の慈しみ、聖神の親しきは、爾衆人とともに在らんことを、
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖神(聖霊)との交わりが、あなたがた一同と共にあるように(IIコリント13:13)。

(詠) 爾の神°とも

あなた(司祭)の神°と共にあるように。

使徒の書簡にも頻繁に見られる、当時一般に行われていた挨拶の形です。司祭は会衆のために神の平安を乞い、会衆も司祭のために祈ります。

(司) 心上に向ふべし。

心を上に向けよう。

(詠) 主に向へり。

心を主の前に挙げよう。

(司) 主に感謝すべし。

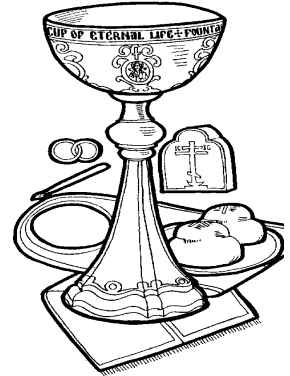
主に感謝しよう。

(詠) 父と子と聖神、一体にして分かれざる三者に伏し拝むは
当然にして義なり。

(父と子と聖神、同一本性で分かれざる三者を拝むのは)

よいこと、正しいことです。

司祭と会衆の対話で祈りが進みます。教会はハリストスの体となり、天にあげられ、主の前に立っています。イイスス・ハリストスという唯一の献げものによって、神への感謝の交わりが回復されました。



ヒポリタスの『使徒伝承』には2-3世紀頃の聖体礼儀の記録があります。今と全く同じ対話が行われて驚きです。

「主はあなたがたとともに。」
一同は答える。「また、あなたの霊とともに」
「心を上に」。「主に向けています」
「主に感謝を捧げましょう」
「それは、よいこと、正しいことです」
そして、次のように続ける…

『聖ヒッポリュトスの使徒伝承』B.ボットの批判版による初訳、土屋吉正訳、燦葉出版社

参考文献

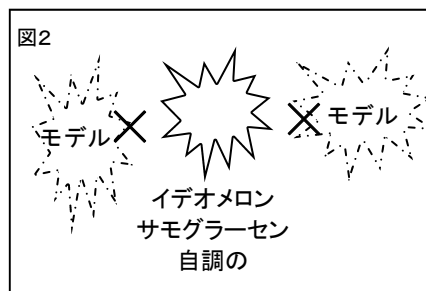
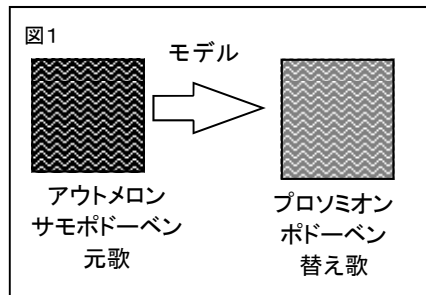
『奉神礼』『教義』トマス・ホプコ著、西日本主教教区発行(教義は未発行)
『ユーカリスト』A.シュメーマン著、新教出版社

ガードナーの『ロシア正教会の聖歌』の第1章と第2章をはばご紹介してきました。3章以降は少々専門的になるので、ここでは省略します。3章4章の翻訳はインターネットに掲載しておりますので、ご関心のある方はそちらをご覧ください。
<http://www.orthodox-jp.com/maria/gardner/index.html>
 最後にビザンティン聖歌の基本であり、ロシアでも近年注目を集めているプロソミオン・ポドーベンについてお話しします。ロシアでは18-19世紀合唱聖歌優勢の中で、単旋律の口伝で伝えられたポドーベンの伝統は失われてゆきましたが、ガードナーは革命前各地を回り収録に努め、「ポドーベン—失われた宝物」というエッセイを書きました。本書でも第1章の最後にふれています。

プロソミオン(ギリシア語) **ポドーベン**(スラブ語)

ギリシア語でプロソミオン、スラブ語でポドーベンは平たく言うと、替え歌です。元歌はアウトメロン、サモポドーベンといえます。ビザンティンの聖歌用祈祷書にはしばしば「○○のプロソミオンで」と書かれていますが「○○の替え歌で」の意味です。アウトメロンとプロソミオンは詩の形が同じで音節数やアクセント位置も揃っているの(図3)、ほとんどそのままあてはめて歌うことができます。

それに対してイデオメロン(サモグラセシ、自調の)というのは独特の詩とそれに伴うメロディを持つ歌のことで、元歌もないし、別の歌のモデルにもなりません。日本の祈祷書にも「自調の」という記載だけが残っています。ちなみにメロンのメロはメロディのメロです。



アウトメロン	プロソミオン	図3
1. Οἶκος τοῦ Εὐφραθᾶ	Ψάλλε προφητικῶς	6 音節
2. Ἡ πόλις ἡ ἀγία	Δαβὶδ κινῶν τὴν λύραν	7 音節
3. Τῶν προφητῶν ἡ δοξα	Τῆς σῆς γὰρ ἐξ ὀσφύος	7 音節
4. Εὐπέπισον τὸν οἶκον	Ἐξ ἧς ἡ θεοτόκος	7 音節
5. Ἐν ᾧ τὸ θεῖον τίτεται.	Χριστὸς γεννᾶται σήμερον.	8 音節

ロシアにもこの替え歌セットは受け継がれました。スラブ語に翻訳すると音節数やアクセントが揃わなくなり実用性は低下しましたが、美しく印象的なメロディが生まれました。たとえばおなじみの降誕祭コンダクの「今処女は」のメロディは実は古いポドーベンのメロディを簡略化して合唱音楽にしたものです。

同じメロディがポドーベンとして「授洗イオアン誕生祭」のコンダク「今日ハリストスの前駆を生む」にも用いられ、音楽が同じであることによって、前駆授洗イオアンの誕生の祝いはハリストスの先駆けであることが表されます。

今日ご紹介するのはエクサポステイラリ「女等よ、慶びの声を聴け」(携香女の主日、英語版の一部)で、のびやかな美しいメロディが特徴です。これは第1節ですが、2節以降も同じメロディの繰り返しです。このメ

Znamenny Chant
arr. W. G. Obleschuk

Not too slowly ♩ = 72

Melody Ison

Hear - ken, O_ wom - en, to the voice_ of
 joy: "I have tram - pled the ty - rant_
 Ha - des; I have_ raised the_ world_ from cor -

ロディをポドーベンにして、復活祭期のほかの主日(フォマの主日を除く)、十字架挙栄祭、生神女進堂祭、聖ニコライ祭、サーロフのセラフィム祭、福音祭、授洗イオアン誕生祭などのエクサポステイラリに歌われます。日本ではあまりエクサポステイラリは歌われませんが、早課のカノンの後、聖歌者がまたは数人で聖堂中央に立って歌う美しい歌です。

ホームページのご案内

○ 「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*

<http://www.orthodox-jp.com/liturgy> 奉神礼や聖歌の実践資料